（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	和デイ			
○保護者評価実施期間	2024年10月15日		～	2025年1月31日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	21名	（回答者数）	18名
○従業者評価実施期間	2024年11月1日		～	2024年12月30　日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5名	（回答者数）	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月31　日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人ひとりに合わせたSSTプログラム（個別・集団)を考えて取り組んでいる。	①個別支援計画に沿った個別のソーシャルスキルトレーニングを行うために、日々のプログラムを考えている。 ②こどもたち同士の関わりを大切にしながら増やしていき、コミュニケーションを取る練習を含め、大きな集団で行う活動はもちろん協力をしながら成り立つ活動を運動プログラムを含め行っている。	プログラムを進めるにあたり、広く職員からの意見を求め偏りのないようにする。普段の子どもたちの言動を見極めながらニーズに合わせたプログラムを展開していく。
2	屋内活動ではなく、土曜日や祝祭日、長期休みなどは屋外での活動を積極的に取り入れている。また、季節に応じた遊びや社会経験ができるようにしている。	①主に土曜日や祝祭日、長期休み時には、お出かけやお買いもの体験、公共施設の利用などの活動を取り入れている。特にそこで学ぶマナーやお金の使い方など学び様々な経験ができるようにしている。 ②生活の中に季節を感じ取れるようにする為、クッキングでは、季節の食材を使用したり、「食育」の観点から栄養士資格のある職員が食材の説明を行ったりしている。	今後も引き継続きプログラムを展開していくが、プログラムの企画段階よりこどもたちが関われるようにする。社会経験が少ないこどもたち一人ひとりが「やりたい、食べたい、楽しみだ」とワクワクするようなプログラム作りを目指す。
3	母体となる法人（社会的養護）の各部署とも協働し、地域で受け入れが難しいこどもたちの受け入れを行っている。	法人の基本理念を理解し、また社会的養護の観点から地域で受け入れが困難なこどもの受け入れを積極的に行っている。児童家庭支援センター　和、こども第三の居場所ともこどもに関しての情報を共有しながら支援をしている。	地域の中で社会的養護が必要なこどもたち及びそれらを取り巻く環境の改善の一部を担っていけるように法人の基本理念及び方針を理解しながら支援を進める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信不足（SNS等）の整備が不十分。	ホームページはあるものの事業所の紹介のみにとどまっている。ブログやインスタグラム等、情報を発信するツールが整備されていない。	事業所の特色を広く知ってもらうための手段としてSNSの活用を進める。
2	地域のこどもたちと交流する場をもつことができていない。	外遊びや外出などの際には、地域のこどもたちとその場の共有は行いますが、「交流」と言う観点ではやれているとは言い難い。また、平日の放課後の時間では外に行く時間もなく難しい。	インクルーシブの観点から、障がい等の区別なく「交流」することは言うまでもないが、現状と併せ、外出時等からの交流を強化しながら市の自立支援協議会（こども部会）にもこの点を問題提起しながら少しずつ改善していくとする。
3	週6日営業しており、また祝祭日も営業している為、職員数がギリギリの場合が多い。	保護者ニーズもあり日曜日以外ほとんど営業している状況である。その為、平日に職員の休みが入ると配置等がギリギリである。実際のところ余裕がない状況である。	不測の事態などは幸い起きてはないが、そのような状況もあり得ないと考えもう少し増員する必要がある。